

## 平成14年度「横浜地区」豊かな体験活動

神奈川県横浜市立平楽中学校

### 1 取組のねらい

学校・家庭・地域社会との連携を密にした「まちと共に歩む学校」を推進し、人やまちとの豊かなかかわり合いを通して自己を見つめ、充実した生き方が実感できるような体験活動の充実に向け、ねらいを次のように設定した。

- (1)豊かな人間関係を重視し、地域社会や他の広い世界とかかわり、互いに成長していこうとする姿勢を大切にします。
- (2)自分のよさや可能性を伸ばし、自分自身をしっかり見つめることを大切にします。
- (3)自ら課題を見つけ、解決し、明るく元気で充実した生活を送ることを大切にします。

### 2 取組内容における教育課程上の位置付け

- ア 「まちから学ぶ時間」・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合的な学習の時間
- イ 国際理解学習（国際学習）・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合的な学習の時間
- ウ 職業・職場体験学習を取り入れた修学旅行・・・・・・特別活動

### 3 活動の概要

本校の体験活動は、「まちから学ぶ時間」「国際理解学習」（国際学習）「職業・職場体験学習を取り入れた修学旅行」がある。ア・イは総合的な学習の時間の内容であり、ウは特別活動で実施している。

保護者や地域の多くは本校の卒業生であり在校生への関心が高い。体育大会や文化祭等の行事も、平日開催にかかわらず、多くの人々が参加している。地域の人々は生徒へ温かい声かけをしてくれることが多く、生徒指導にかかわることも少なくない。

また、地域には、専門的な知識や高度な技術をもつ人が多いこともあり、生徒と地域の人々が、共に成長・発展することを願い、「まちから学ぶ時間」（総合的な学習の時間）を立ち上げ、活動内容の第一の柱とした。

また、「国際理解学習」（国際学習）では、外国籍生徒が多いことから、お互いに認め合い、共に生きるという視点から国際学習としての単元を作成し、総合的な学習の時間の活動内容の第二の柱とした。

さらに、修学旅行では、従来の名所・旧跡等の見学にとどまらず、生徒の主体的な計画による職業・職場体験活動を取り入れた体験活動を展開している。

#### (1)まちから学ぶ時間

実施に当たっては、地域の歴史や地域の生きる姿、横浜の歴史、現在へとつながる「まち」としての幅広いとらえ方を踏まえて各事業所を選んだり、外部講師をお願いしたりした。本年度は、町内会長、青少年指導員、PTA、区役所関係の方々のほか、地域の会社や商店、公共施設などへと拡充した。

企業・団体への事前交渉等は、教員の支援により、生徒が自ら行い、コースを設定し、生徒選択により、取り組んでいる。



< まちから学ぶ時間での体験学習の例 >

ア	信愛塾での異文化体験	イ	三吉演芸場でのボランティア活動
ウ	南消防署での職業体験	エ	横浜地方気象台での「気象予報と気象台体験」
オ	和紙を使った手工芸品制作体験	カ	古代土器と装飾品作成体験
キ	保育園での保育体験	ク	養護学校でのボランティア活動
ケ	横浜ウォーキングによる地域理解	コ	煎餅やさんでの職業体験
サ	バードウォッチングによる自然体験	シ	馬の博物館での職業体験
ス	野菜市場での職業体験 など。		

上記の活動の交渉と計画は、生徒自身が自分たちで行いたいという願いをもっているため、その願いを実現させるようにするとともに、体験コースの質についても充実していきたいと考えている。

(2)国際理解学習（国際学習）

実施に当たっては、次の項目をめあてとしている。

広い視野に立ち、共に生きようとする。

国際平和について考える力を高める。

国際理解としては、「人権」や「環境」、「福祉」などの様々な事柄と密接に関連し合っていることに気付く。

総合的な学習の時間のテーマの一つとして、自分で課題を見つけ、自分で考え、解決していく力を身に付ける。

本校では、多くの外国籍の生徒が在籍しているため、生徒の生活から異文化に目を向け、体験を重視した「国際理解学習」や、ユネスコが提唱している「人の心の中に平和の砦を築く」を目指し、地球的な問題に焦点を当てた「国際学習」に取り組んでいる。

< 国際学習における体験学習の例 >

ア	前ダッカ日本人学校教諭による講演	イ	東南アジアを題材にした学習
ウ	外部講師による講演とワークシート	エ	ワークショップ
オ	国際平和スピーチコンテスト		

外部講師は、地元のNGO、地球の木、シェア（国際保健協力市民の会）、SVA（シャンティ国際ボランティア会）、FHCYアジア障害者パートナーズ、「WFP応援団」ハンガーマップ、幼い難民を考える会、シャプラニール（市民による海外協力の会）などをお願いしている。

1～2年はクラスごとに、3年はコース選択により、子どもたちの生活の現状、援助問題等について、多様な手法を使って体験型の授業を展開している。とりわけ、日本人の交流の場「信愛塾」の方や外国人のアイデンティティ研究をしている講師の先生方とのふれあいは、心を豊かにしている。外国人の人たちが増えている状況の変化を知り、共に生きることの大切さを実感できたことは大きな成果といえる。

ワークショップでは、地球の木のスタッフを招聘し、自作教材マジカルバナナ（ロールプレイングのワークショップ）や貿易ゲーム（世界経済の仕組みを体験できるゲーム）などを行っている。

国際スピーチコンテストでは、各学級、各学年、そして校内でのスピーチコンテストを実施している。

### (3)職業・職場体験学習を取り入れた修学旅行

2泊3日の修学旅行の行程に体験学習を組み入れ実施している。体験学習は、修学旅行実行委員会が中心となり、インターネット等を活用して、コース別案内一覧表、希望調査や班編成等、教員と生徒が一体となって計画・運営をした。

#### < 職業・職場体験学習の例 >

- A 清水焼  
京都伝統の焼き物「清水焼」体験や伝統工芸について研究する。
- B 西陣織  
西陣織の工程調べや毛織りのランチョンマットづくり体験をする。
- C 友禅染  
宮崎友禅齋が始めた京友禅の歴史やその仕事を見学し、型染め友禅を体験する
- D 組み紐細工  
帯留めに使う組み紐作りの方法を学び、組紐づくりを体験する。
- E 数珠（念珠）作り  
数珠作りの体験をする。
- F 和菓子作り  
伝統の京菓子店で、「最中」づくりを体験する。
- G 大弓  
馬上から射る形の本物の弓引きを体験する。
- H 京漬けもん  
京都の漬物屋さんで、漬け物を商品化するまでの漬物づくり体験をする。
- I あぶり餅  
伝統的なあぶり餅の歴史について調べ、あぶり餅づくり体験をする。
- J 焼き菓子作り  
伝統の焼き菓子づくりの工程を調べ、八つ橋づくり体験する。



修学旅行に体験活動を取り入れることは、1～2年の体験活動の企画・実践が土台となるため、1年～3年までの体験活動の系統を整備する必要があると考えている。

### 3 活動の評価方法

上記のうち、「まちから学ぶ時間」「国際理解学習」（国際学習）は、総合的な学習の時間に位置付けているため、単元目標を設定するとともに、評価の観点を定め、生徒の活動の進歩の状況进行评估している。

評価に当たっては、総合的な学習の自己評価表を活用し、生徒が記録表に自己評価し、蓄積していくというポートフォリオ評価を実施している。

#### < 総合的な学習の時間 自己評価表の例 >

活動の評価項目	学習テーマ	国際学習	まちから学ぶ時間	福祉教育
取組課題や内容は何でしたか		(記述)		
興味・関心をもって取り組みましたか				
取組の計画はうまく立てられましたか				
最後までしっかり取り組みましたか				
いろいろな資料を活用できましたか				
成果を発表したり表現したりできましたか				
この学習で身に付いた力は何ですか		(自由記述)		

#### 4 学校支援委員会

学校としての推進体制は、学校長を中心として、教務主任等による運営委員会「まちから学ぶ時間」担当者が企画・運営・推進する。また、学校支援体制は、地域代表者、地域青少年指導員、地域体育指導員、PTA会長、学校長ほか教職員4名、計8名で組織しており、年4回の会合をもっている。

話し合う内容は、体験活動が円滑に推進できるように地域の事業所等との連携の図り方や体験そのものについてが中心である。また、地域の店や企業との連絡調整の柱となる人の選出が課題である。

#### 5 推進地域としての取組

推進地域は、横浜市南区の小学校4校、中学校3校、高等学校1校の計8校が受けているが、隣接する小学校と中学校、中学校と高等学校などが連携して推進している。推進地域の取組全体のねらいと重点は、次のとおりである。

互いのアイデンティティを尊重し、認め合い、豊かに生きることができるようになる。

将来の生き方を考え、様々な体験的な活動を通して、働くことの意義や地域の状況を理解し、地域に生きることの大切さを実感できるようにする。

多くの自然にふれあう中で、子どもの成長にとって欠くことのできない他人を思いやる心や豊かな人間性をはぐくむ。

#### 6 活動の成果

これまでの活動を見直し、学習集団や学習の場を多様化したり、学習時間を弾力化したり、地域住民とのネットワーク化を図ったりする中で、職業体験や多様な体験コースを設定したところ、地域の様々な団体の方や外部講師とのふれあいにより、それぞれの団体の活動の考え方や生き方、職人技にふれ、生徒が人の生き方に学び、自分の生き方に手がかりがもてるようになったといえる。

また、地域の人々との交流や体験を伴う活動の中で、生徒は自分の考えが発表できるようになり、個性も発揮できるようになってきている。このことから、学校内のトラブルが減少し、学校生活も落ち着いてきている状況である。

#### 7 今後の課題

「まちから学ぶ時間」「国際理解学習」(国際学習)は、総合的な学習の時間の柱として位置付け、体験的な学習の場面を盛り込み、実施してきたが、総合的な学習の時間としての単元目標に、体験的な活動の目標を組み込む必要があると考える。

また、単元全体に生徒の予想される活動を学習過程に位置付けるなどの見直しをもった学習計画が求められる。例えば、1～2年での体験学習の企画・実践をもとにして、3年で体験活動が集大成できるよう、学習内容の系統を工夫・改善していくことが大切であると考えられる。

体験活動の全体計画作成に当たっては、以上のことを踏まえ、生徒の希望選択がかなうようにするとともに、活動の質の向上を目指し、豊かな心の醸成に資するような内容構成を考えていきたい。併せて、地域からは、心のふれあいができたなどの感想をいただいていることから、地域の人や外部講師などのかかわりを大切にし、計画の段階からともにかかわり、体験活動を通して、社会性や新たな公共による社会を作ろうとする意欲を喚起していきたい。